令和4年度　自己評価及び学校関係者評価

旭市立矢指小学校

1　学校教育目標

「 健康で、豊かな心と自ら学ぶ意欲をもった児童の育成 」

2　本年度の重点化された具体的な目標

① だれもが尊重される潤いのある学校づくりに努める
② ふるさと旭に誇りをもち、社会に視野を広める子どもの育成を目指す
③ 確かな学力と学び続ける姿勢を育む
④ 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を進める
⑤ 豊かな人間性と思いやりの心を育む
⑥ 健やかな体と様々な危険に適切に対処できる知識や行動力を育む
⑦ 地域とともに歩む学校づくりを進める
⑧ 信頼される教職員を目指す

学校関係者評価委員（学校評議員）	
学識経験者	林　佳男
矢指区長会会長	石毛　誠
元区長	嶋田　竹男
主任児童員	伊東　八重子
PTA会長	伊藤　政則

3　自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

学校による自己評価の評価基準　：A(満足できる：肯定的評価90％以上)、 B（ほぼ満足できる：肯定的評価70～89％）
C（やや努力が必要である：肯定的評価50～69％）、D（努力が必要である：49％以下）

学校関係者評価の評価基準　：A(適切な評価である)、B（ほぼ適切な評価である）、C（やや不適切な評価である）、D（不適切な評価である）

分野・領域	評価項目	評価の指標(%)	自己評価		考察と改善に向けた取組	学校関係者評価 自己評価の適切さ	学校関係者評価 改善に向けた取組の適切さ
学校運営 教育課程	保：子どもは学校へ行くことを楽しみにしている。	92.2	A	A	肯定的評価は高いものの、できれば全ての児童及び保護者が「学校は楽しいところ」と認識していただけるよう努力することが学校の責務だと考える。悩みを抱えている児童は少なからず存在するので、これからも見落とすことなく丁寧に観察をしていくことが大切だと考える。 学校行事については昨年度末の結果より高くなっている。コロナ禍における制限の緩和が進み、コロナ禍前と近い形で行事を行うことができたことが高評価につながったと考えられる。今後も新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインの動向を注視し、児童にとって価値ある学びを積み重ねられるよう努力していきたい。	A	A
	児：学校はたのしい。	96.7	A				
	職：子どもは学校へ行くことを楽しみにしている。	100	A				
	保：学校の行事は楽しく充実している。	94.2	A				
	児：学校の行事は楽しい。	92.4	A				
	職：学校の行事は楽しく充実している。	100	A				
学校関係者による意見等	・学校での児童の様子を保護者が児童目線で感じることができれば良い。家庭での親子のコミュニケーションが充実して欲しいと期待せずにはいられない。 ・全てA評価ということなので、現状の良い取り組みの継続と更なる改善に向けての取り組みを期待する。個別の児童への対応を行い、学校を楽しみにする児童が増えることを期待したい。						
学習指導	保：子どもは授業が楽しく、わかりやすいと言っている。	77.7	B	B	保護者の肯定的評価は、昨年度末より15％以上落ちている。これは、年度当初の教員不足による学習指導に対する不安を払拭することができなかったことに起因していると考えられる。児童の評価は高く、教師側も手応えを感じていることが伺えるので、今後も児童の「わかった」という喜びを味わわせることができるよう日々精進を重ね、保護者の不安を払拭できるよう努力していきたい。 家庭学習の習慣化については、「家庭学習の手引き」をリニューアルし、各学年足並みをそろえて取り組むようにした。児童、教師の評価は高く、特に教師の評価は昨年度末より25％向上している。それだけ手応えがあったものと考える。しかし、保護者の評価は低いままなので、情報発信の方法を考えていく必要があるであろう。	B	A
	児：授業が楽しい。	93.3	A				
	職：子どもは授業がわかりやすく、楽しく学べている。	100	A				
	保：子どもは家庭学習の習慣がついている。	69.9	C				
	児：家でも学習をきちんとしている。	88.3	B				
	職：子どもは家庭学習の習慣がついている。	92.3	A				
学校関係者による意見等	・教師が手応えを感じ、児童も高い評価を出しているにもかかわらず、保護者は満足していない。これは保護者が、我が子の「勉強への熱意」を知る判断基準がないのかもしれない。教師の自己満足に終わらないように、情報発信は大事だと思える。 ・児童と先生の評価はAなので、現状の取り組みを継続で良い。保護者への啓発等の取り組みを今以上に進めるべきと思う。						
生徒指導	保：子どもは正しい言葉遣いやあいさつができている。	76.7	B	B	今年度は児童主体による「あいさつ運動」を復活させ、あいさつの大切さを考える時間を増やしてきた。少しずつ効果が上がっているものの、できている児童とそうでない児童の差が激しいと感じている。あいさつに関しては強制するのはあまり効果がないと考える。粘り強く教師側からあいさつをし続け、児童の気づきを促す活動をしていきたい。 児童理解については、児童、保護者ともに学校側として期待する数値を上回ることはできなかった。毎月のアンーケート結果をもとに個別の面談等を行っているが、心を開ききっていない児童がいるということだと考えられる。来年度は、職員によるカウンセリングの研修なども取り入れ、より児童の思いに寄り添った指導ができるよう精進していきたい。	B	B
	児：正しい言葉づかいやあいさつができる。	90.7	A				
	職：子どもは正しい言葉遣いやあいさつができている。	61.5	C				
	保：学校は子どもをよく理解し、適切に対応している。	82.6	B				
	児：学校（先生）はみんなのことをよくわかっている。	91.6	A				
	職：子どもをよく理解し、適切に対応している。	100	A				
学校関係者による意見等	・講師を招聘し、「生徒指導・学級経営」に関する校内研修をし、共通理解を図ることが大切だと考える。 ・児童理解については、保護者の判断がB評価なのに教師の判断がA評価となっている。このギャップがどこにあるのか掘り下げて考えるべきである。 ・あいさつ、言葉遣いは、保護者を含めた取り組みを進めていくことで効果を期待したい。、						
道徳 人権教育	保：学校はいじめのない学級作りに取り組んでいる。	87.4	B	A	学級が荒れてしまった学年からの不安が保護者アンケートに反映されたと考えている。トラブルが多い学級の保護者にとっては、いじめの心配をするのは当然であり、それを払拭できなかったのは学校の責任である。現在、該当学年には空き時間の教師が補助に入ったり、少人数指導を行ったりして落ち着きを取り戻せるよう配慮している。その成果は徐々にではあるが表れている。 今後も学級経営を丁寧に行うとともに、定期的なアンケートにより児童が人間関係の悩み等を訴えることができる場を確保し続けていきたい。	B	A
	児：先生はいじめのない学級作りに取り組んでいる。	94.1	A				
	職：いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	100	A				
	児：先生は相談にのってくれる。	97.5	A				
	職：特別な支援を要する子どもに適切に対応している。	100	A				
学校関係者による意見等	・いじめについての取り組みに対して保護者のB評価が気になる。「いじめ」の定義に対する保護者の解釈の差なのだろうか。 ・学校側の考察に示すように「学級が荒れた」「トラブルが多い」等の心配事に対する過剰反応であって欲しいし、そのような保護者の「心のケア対策」も必要になってくるのではないだろうか。						
保健・体育 安全管理	保：学校は体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	89.4	B	B	コロナ禍が収まりを見せる中で少しずつ密を気にしないで運動を行えるようになってきている。児童、教師の肯定的評価はかなり高いものの、保護者の中にはまだ不十分と感じている方もいるようである。運動会やマラソン大会など屋外での活動については保護者の参観が認められているものの、体育館で行うなわとび大会はまだ遠慮していただいている。コロナ禍による様々な制限が完全に取り払われたときに、学校として満足のいく評価を得られるのかもしれない。今後も児童の体力向上に向けた取り組みを続けていきたい。 保護者の中で登下校時の安全確保についての心配が大きいようである。集団下校再開の要望もあがっている。集団下校の是非については、保護者の中でも意見がわかれそうなので、アンケートを実施し、その結果をもとに対応していきたい。また、登下校時の見守りを教職員が行うことは限界があるので、地域学校協働活動の一環として、何かできないか今後提案していきたい。	B	A
	児：先生はみんなの体力がつくように取り組んでいる。	97.5	A				
	職：体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	100	A				
	保：学校は健康管理に十分取り組んでいる。	88.4	B				
	児：先生はみんなが健康でいられるように取り組んでいる。	99.1	A				
	職：学校は健康管理に十分取り組んでいる。	100	A				
	保：学校は登下校や校内生活の安全に十分対応している。	83.5	B				
	児：学校は安全だと思う。	96.7	A				
	職：登下校や校内生活の安全に十分取り組んでいる。	100	A				
学校関係者による意見等	・「体力作り」については、保護者がこれを学校側に依存しすぎるのは問題だと感じる。我が子を元気に学校へ出かけられるようにするのが、親の最低の勤めなのではないだろうか。（保護者のアンケート結果を見ての感想） ・登下校における児童の安全確保については「地域学校協働活動」を大いに活用すべきと思う。ちょっとの時間の都合をみんなで融通し合えればいいのだが･･･。 ・登下校での安全確保については、必要な人員や場所等の提案があれば、各区で協力したいと思う。						
保護者・地域との関わり	保：学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	93.2	A	B	学級がやや荒れてしまった学年の保護者の不安が、「相談に適切に対応している」の肯定的評価を下げていると推察される。保護者や児童からの悩み相談に対して、真摯に向き合っているつもりであるが、不信感をもたれる事例があったのだと反省している。今後も保護者の声に耳を傾け、また、学区会議等を通して地域の声にも耳を傾け、学校としてできることを模索していきたい。	B	A
	職：学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	100	A				
	保：学校は保護者や子どもの相談に適切に対応している。	85.4	B				
	職：保護者や子どもの相談に対し、適切に対応している。	100	A				
学校関係者による意見等	・保護者の肯定的評価の内訳を見ると、本当に満足している人は40％前後である。このことを学校は真摯に受け止め、もう一度校内できちんと話し合うべきだと思う。児童と教師の間はうまくいっているが、教師と保護者の間はそこまでうまくいっていないのではないかというのが私の推論です。 ・矢指地区の活性につながるような学校と地域の交流について、地域としても提案していきたいと思う。						